

いつでもどこでも
日刊産業新聞DIGITAL
 PC・スマホ・タブレットで産業新聞まるごと読める



まずは2週間の無料試読から
<https://www.japanmetal.com/pre-order>

発行所 産業新聞社
 東京本社 東京都中央区新川1-16-14
 TEL 03(5566)8770 FAX 03(5566)8185
 大阪本社 大阪市西区阿波座1-3-15
 TEL 06(7733)7001 FAX 06(7733)7070
 アジア総局 上海市雲山開路85号 東方国際大廈C座1604室
 上海支局 TEL 86-21-6278-7750 FAX 86-21-6278-7751

日刊

産業新聞

Japan Metal Bulletin

2020年(令和2年)
 11月20日(金)
 第20082号
 Since 1936

国内外の枠を越えた統合の可能性は？

佐野「中国系が絡んでも私は悪いと思わない。とはいえ、わが国のリサイクル企業が全て中国系やヨーロッパ系で占められては情けないという思いはある」

高橋「私は国外には静脈産業の大企業があるのに、日本にそういう企業に対抗し得る企業がないのは国の恥だと思ってる。どこかの傘下に入るのではなく、自分たちでやりたい。弱者連合になるのではなく、各社がそれぞれ頑張った上で統合したい」

佐野「統合にあたってはいろんなジャンルの得意分野を持つことが大事。鉄を向って取り扱って、鉄を向って取り扱ってはいけません。各社が成長を予感させるような事業を手がけることと経営統合はセット。そうじゃないと面白くないし、ケミストリー

が起きない」

鈴木「日本の資源の持続性のためにも静脈

金属リサイクル 未来への展望

上場大手各社首脳座談会 3

産業の再編は重要になってくるんじゃないかなと思う。私が考えているのは価値観の変化のこと。一番はSDGs。2015年に170カ国の合意でできたもの

高橋「私には技術がないと原料化できない。当社はその部分に特に力を入れてやっていくが、全てを備社でやるのは大変だから、技術や資金を提供し合ったりするところがあ。そうやって協力して業界を伸ばし、日本を高度循環社会にしたい。もちろん技術・人材が必要。そのため施策を一所懸命やっている。人が集まるようなこんな新社屋をつくるとか(笑)。

佐野「そういつたヤードを念頭に置いて法改正する必要はない。法を適用しさえしてくれば十分。海外系企業だけを守るのは結果的に衰退を招くんじゃないかな」

高橋「佐野さんに全くの同意見。食われな

規模・技術で「黒船」に対抗

高橋「私は国内循環が善で国際循環が悪とは思ってない。環境汚染や劣悪な労働環境がないように担保されたらいいと思う。二一があるところ」

佐野「ただ雑品問題についていうと、私はかつて中国にどんと輸出している時、社員だ。確かに中国系ヤードが雨後のたけのこのように全国に増えている。放置している自治体があるけど、それは自治体が悪いのではなく、法的根拠がないのが現状。そういう点ではルールを新たに作る必要はないけど、中に入ってチェックする機構をつくる必要があると思う。でも行政にミカリリサイクルに

海外系ヤードが国内に増加している問題

高橋「私は国内循環が善で国際循環が悪とは思ってない。環境汚染や劣悪な労働環境がないように担保されたらいいと思う。二一があるところ」

佐野「ただ雑品問題についていうと、私はかつて中国にどんと輸出している時、社員だ。確かに中国系ヤードが雨後のたけのこのように全国に増えている。放置している自治体があるけど、それは自治体が悪いのではなく、法的根拠がないのが現状。そういう点ではルールを新たに作る必要はないけど、中に入ってチェックする機構をつくる必要があると思う。でも行政にミカリリサイクルに

高度循環社会に向け協調



座談会会場のリバーHD両国分室 (2020年2月完工)

力し始めてわれわれの提案に耳を傾けるようになった。それはこの一連の出来事が社会問題として大きくなったからだ」

高橋「私は国内循環が善で国際循環が悪とは思ってない。環境汚染や劣悪な労働環境がないように担保されたらいいと思う。二一があるところ」

佐野「そう、いわば宝の山。電池もそう。きちんと回収してあげたい。中国がまた雑品を買い始めることをむしろ恐れている。日本でも循環の仕組みを今のうちにきちんと構築せねば。金属リサイクルだけの技術じゃダメ。自分たちの事業ポートフォリオを転換しないといけない。鉄スクラップだけでもはや成長できない。積極的な成長分野にいかないと」

(松井健人 早間大吾)

日刊産業新聞 20・11・20